

SSH米国海外研修④ ～シカゴ科学館めぐり～

夏休みに行われた SSH 米国海外研修もあっという間に帰国。今回はコンコルディア大学を離れ、シカゴでの科学館見学の様子をお伝えします。

7月25日：科学産業博物館

この日は大学からバスで2時間、シカゴへ移動します。前日のお別れパーティーでは、コンコルディア大学の先生方に風鈴やお菓子などのプレゼントを渡したり、一緒に写真を撮ったりして別れを惜みました。大学を離れる寂しさは感じましたが、研修中の睡眠不足が続いた影響か、バスの中では多くの生徒がぐっすり眠っています。しかしシカゴは「建築博物館」と呼ばれるほど多様な建物の集まる街。高層ビル群が見えてくるにつれて、大都会シカゴへの期待が高まりました。

科学産業博物館はアメリカの科学技術や産業を航空機、交通手段、自然現象、人間の身体、商業と文化などのエリアに分けて展示しており、総面積は東京ドームの2.5倍という規模の大きさです。生徒たちはフロアマップを片手に思い思いの展示を見学しましたが、なかでも多くの生徒の印象に残ったのは人体の展示です。人体の輪切りや筋肉、血管、臓器など、かつて生きていた人間の体は、日本ではほとんど目にする機会がありません。生徒たちは、人体の不思議を感じながら展示に真剣に見入りました。

7月26日：フィールド自然史博物館

映画「ナイトミュージアム」の舞台として有名なフィールド博物館の目玉は、ティラノサウルス・レックス「スー・SUE」の骨格標本です。開館直後の博物館は見学者も少なく、生徒たちはスーの骨格標本をじっくり見学できました。展示はアメリカ先住民の文化、哺乳類、世界の植物や古代エジプトなど、とても1日では回りきれない程の充実した展示で、興味のある分野からじっくり見る派と、まずは全体を一通り見る派に分かれていたようでした。「ここで見た恐竜の骨格標本はカッコイイと思ったが、前日の科学館で見た人体の骨格標本はリアルに感じ、同じ骨格標本でも感じ方が違うことが不思議だった」という感想も聞かれました。

今回の研修では、野外実習・講義・施設見学・プレゼンテーションなど、英語で科学を学ぶ貴重な体験をしました。また、異文化体験からも多くを学びました。研修後のアンケートでは、「言語の違いはあるが、一生懸命伝えようとするれば相手も理解しようとしてくれて、伝えることができると分かった」、「外国で日本との違いを発見することで、日本についても深く知ることができた」という感想の他、「後輩たちにもぜひこの経験をしてほしい!」という声も聞かれました。この夏の体験が生徒たちの今後を豊かにすることを願って、本報告を終えます。最後まで読んで下さった皆様、ありがとうございました!



毎日講義を受けた環境保全センター



「建築博物館」シカゴ



フィールド博物館の「スー」